

ミヤマガラス個体数調査 & 識別マニュアル

NPO法人バードリサーチ
高木憲太郎



ミヤマガラスに出会ったら、

まず先に個体数全体をカウントしておき、そのうちの一部を双眼鏡または望遠鏡を使って識別する。

※識別が難しいものは無理にどちらかにいれず、不明とする。



(^o^) ミヤマガラスの群，発見！

まずは時計を見て，時間を記録します。



双眼鏡を使って，ミヤマガラスとコクマルガラスの個体数をカウントします。

遠くの草陰や土手の影に隠れて見えないこともあります。気をつけましょう。

個体数が多い時は，10羽単位で数えます。

少しずつ移動しているときは，ダブルカウントや逆に数えもらしが多くなります。

少し落ち着くまで待つなど工夫するようにしましょう。

望遠鏡または倍率の高い双眼鏡を用意して，1羽ずつ見ていきます。カウンターが2つあると便利。



【成鳥】 嘴のつけ根が白いのが成長の特徴。頭が膨らんで見えるのは，毛を逆立てているから。頭の形で識別はできません。

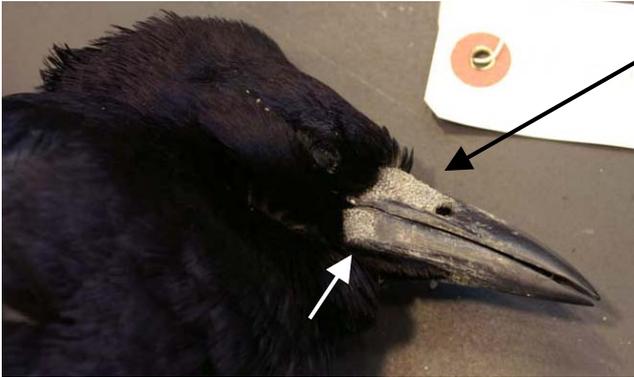


【幼鳥】 嘴のつけ根に毛が生えていて，ハシボソガラスに似て見えます。

標本を見ながら、成鳥と幼鳥の違いをもっとよく見てみましょう。



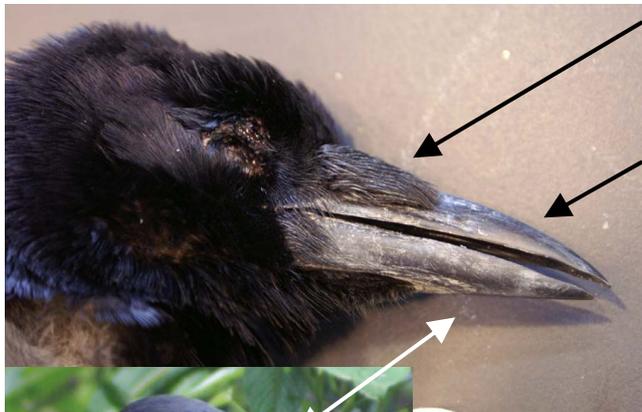
成鳥



嘴のつけ根は、泥で白くなっているのではなく、毛状の羽が生えていた場所が石灰化？して白くなっているみたいです。よく見ると丸いわっかがきれいに並んでいます。

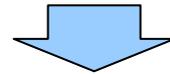
下嘴のつけ根にも、白い部分があります。

幼鳥



嘴のつけ根に毛状の羽が生えています。この羽は生後10~15ヶ月で抜けるそうです。

上嘴の湾曲はハシボソガラスよりもなだらか。こうして見ると、だいぶ違って見えますが、野外だとけっこう難しいです。



高木流識別のポイント

ハシボソガラスと幼鳥の識別

- ・ 採食している時は、ハシボソガラスは群の端のほうにすることが多く、ミヤマガラスに比べると、地面をつつく頻度が少ないことが多い。ミヤマガラスとハシボソガラスが並んでいる場合は、ハシボソガラスのほうが頭半分ほど背が高い。また、ミヤマガラスが徐々に移動しながら田んぼを移っていく時、ハシボソガラスは元の場所に取り残されていることが多い。
- ・ 電線にとまっている時は、体の大きさがわかりやすい。ハシボト > ハシボソ > ミヤマの順番にほぼ同じ比率で全長が短くなる。
- ・ 飛んでいる時は、ミヤマガラスはハシボソガラスよりもさらに翼長が短く、体重も軽いので、蝶のようにひらひら飛んで見えることが多い。



ハシボソガラス

成鳥と幼鳥の羽色の違い



成鳥

幼鳥

幼鳥の風切、雨覆、尾羽などは成長の青紫の光沢と違って光沢が少なく褐色。